



B. BRAUN AESCULAP Surgical Asset Consulting Unit エースクラップ鋼製器具メールマガジン 第9回 手術用剪刀の名称と形状②

こんにちは。

前回、手術用剪刀の名称と形状①として、メッツェンバウム剪刀とメーヨー剪刀を紹介させて頂きました。

今回は、手術用剪刀の名称と形状②と題し、クーパー剪刀、結紮糸用剪刀をご紹介させて頂きます。

※メルマガの最後に、新たな修理不能証明書の依頼方法に関してご案内させて頂きます。

【クーパー剪刀】

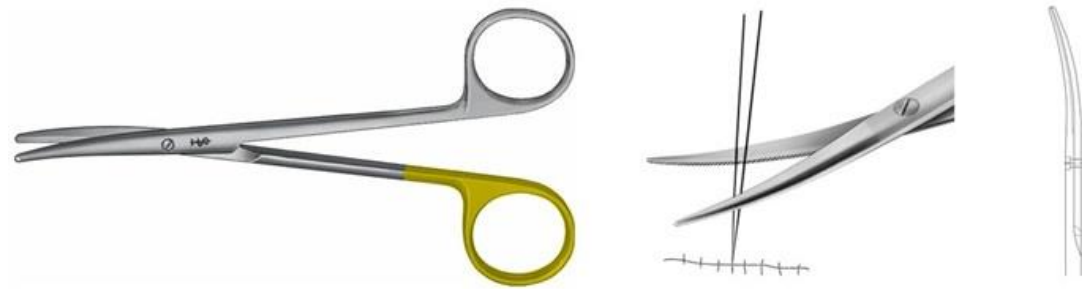


クーパー剪刀は、前回ご紹介したメッツェンバウム剪刀、メーヨー剪刀よりも刃の幅が広く、先端は鈍になっている剪刀です。手術では、主に靭帯や筋膜組織などの比較的硬い組織の切離や鈍的な剥離の際に使われています。

病院では、クーパー、剪刀、セーレ、ゲラーデなどと呼ばれ、長さや直・曲などの形状で地域によっては呼び名が変わっているようです。皆様のエリアではいかがでしょうか？

元々は、「近代血管外科の元祖」と呼ばれているイギリスの外科医 Astley Cooper 先生 (1768～1841)が開発された剪刀と言われております。

【結紮糸用剪刀】



こちらは、縫合糸を切る専用の剪刀で、結紮糸用剪刀になります。組織を切開する剪刀と使い分けることで剪刀の長寿命化が図れます。品番では、BC294R～BC297R になります。

ハンドル部分の片方だけが金色となっているのが目印です。片方だけが金色となっているのは超硬チップ付剪刀である事の意味と、通常の剪刀との見分けがつくようにされているためです。

刃先はいわゆるスーパーカットと同じく W カット（鋸状の刃）加工がされていて、縫合糸がすべるのを防いでいます。

また、刃先を完全に閉じてもハンドル部分は少し開いた状態で止まるようになっており、縫合糸を挟み込まない事や先端の繊細な作業がしやすくなる工夫がされています。

第 10 回は、手術用剪刀の名称と形状③と題し特徴的な剪刀のご紹介をさせていただきます。

《修理不能証明書依頼フォーム開設のご案内》

画像にて修理が難しいと判断できそうな故障品に関しまして、発送等のご負担軽減のため、故障品の画像をお送り頂くと修理不能証明書を発行させて頂く依頼フォームをリリース致しましたのでご案内申し上げます。

もし、エースクラップ鋼製器具において、折損、破損、ひび、過度な曲がり等で修理ができないと思われる故障品がございましたら、スマートフォンなどで写真を撮って頂き、下記サイトからご連絡を頂ければと存じます。

弊社修理担当者が画像確認の上、修理不能と判定しますと修理不能証明書を発行させていただきます。

Aesculap 鋼製器具の修理不能証明書依頼フォーム (bbraun.jp)

ご不明点がございましたら、弊社鋼製器具営業担当までご連絡をお願い申し上げます。

引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。



ドイツ・マイスターが製造する、自慢の鋼製器具

ビー・ブラウンエースクラップ株式会社

ジェネラルサージェリー事業部

サージカル アセット コンサルティング ユニット

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-38-16 JEI 本郷ビル

TEL : 03-3814-2525 E-mail : sacu.jp@bbraun.com

ホームページ : <https://www.bbraun.jp/>

